

# 全国学力・学習状況調査を 活用した指導改善に向けて

分析支援ツール等を活用した  
学力・学習状況改善プラン作成の手引き

— 小学校編 —



岡山県マスコット  
ももっち

平成26年8月  
岡山県教育庁義務教育課

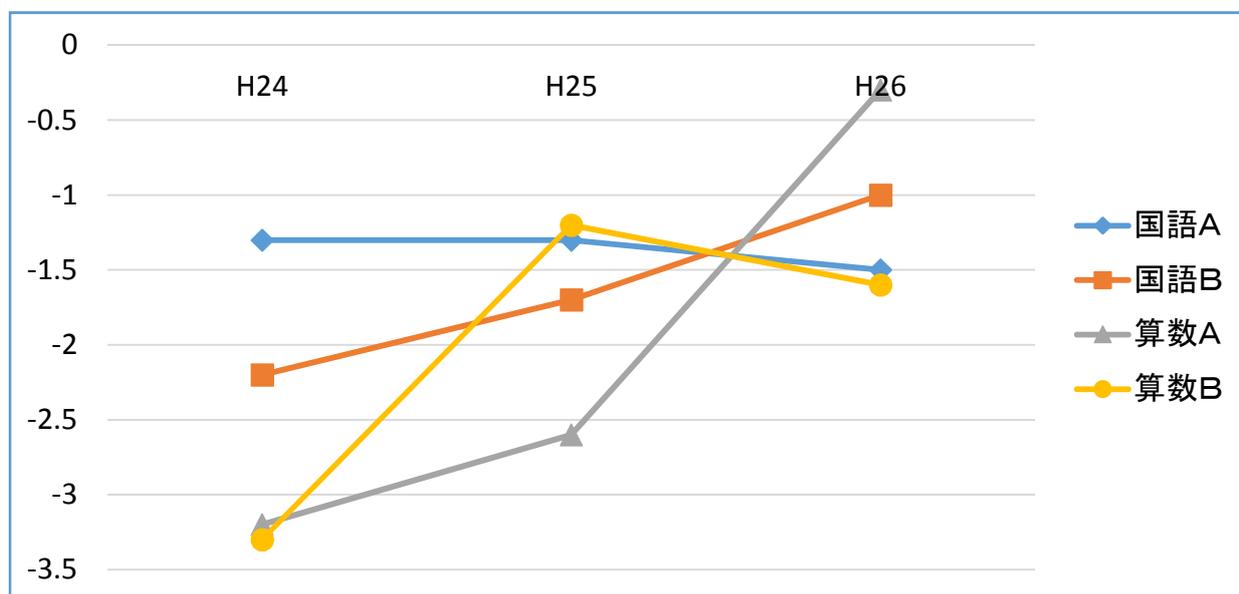
## はじめに

この度、平成26年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。岡山県の子どもたちの学力の状況は、小学校で基礎的・基本的な問題において着実に改善していることが明らかになり、日々の取組による確実な成果が見られています。

子どもたちの学力の向上のためには、各学校において、子どもたちの学力の状況を正確に把握した上で状況に応じた指導改善に取り組むことが大切であり、現在多くの学校で、全国学力・学習状況調査を活用した学校独自の指導改善に向けた取組を進めていただいているところです。

そうした各学校の取組を一層効果的なものとするため、県内の好事例を交えながら、全国学力・学習状況調査を活用した指導改善のヒントを1冊の冊子にまとめました。学校ごとに子どもたちの抱える課題は様々ですが、指導改善の考え方や手法について参考になるところを積極的に取り入れ、子どもたちの更なる学力向上につなげていただきたいと思います。

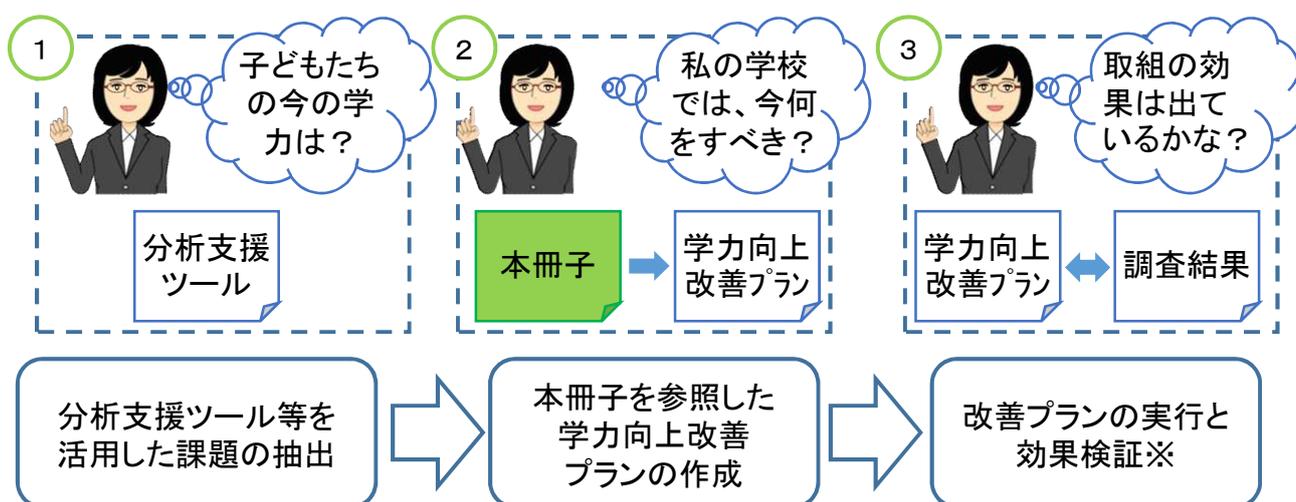
### 【直近3年間の岡山県平均正答率の全国平均との差】



# 本冊子の使い方

## (1) 目的・位置付け

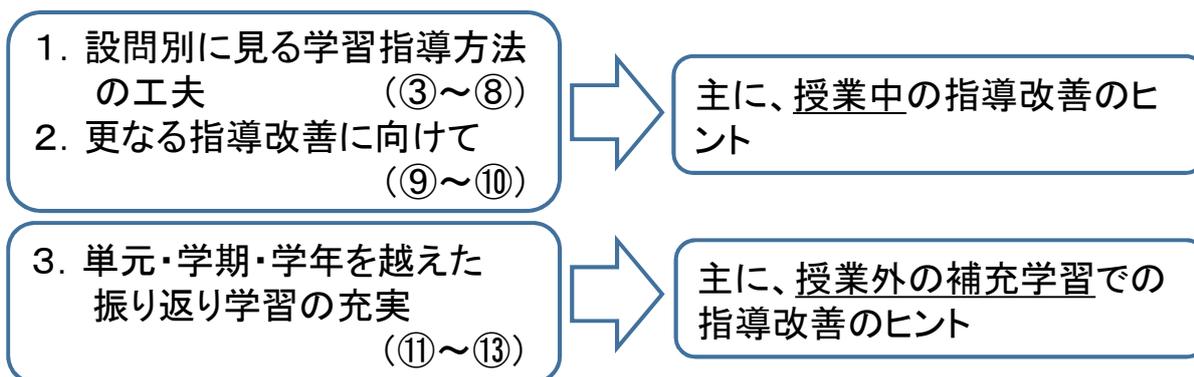
本冊子は、学力向上策を検討するあらゆる場面で利用いただける内容となっていますが、特に、分析支援ツール等を使った現状把握・課題抽出の後に行う、学力向上改善プランの作成の際にご活用ください。



※たしかめテスト、次年度全国調査での効果検証

## (2) 構成

本冊子は、「設問別に見る学習指導方法の工夫」「更なる指導改善に向けて」と「単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実」の2パートから構成されています。



## (3) 使用上の留意点

学力向上改善プランの作成を教務主任等の担当教員任せにするのではなく、本冊子を学校全体で共有し、学校全体で子どもたちの学力向上に取り組んでください。また、ここで紹介される事例を参考にしつつ、子どもたちの学力の状況などの学校の実態にあった取組の工夫を行ってください。

# 1. 設問別に見る学習指導方法の工夫

## (1) 設問別の課題の把握

各学校に配付されている分析支援ツールを使用して、設問ごとの全国平均との差を把握します。

※この表は国語科の設問に該当する問題があるため、それぞれの設問について各設問の国語科の平均と、算数の国語科とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣意	学習指導要領の趣意		算数の領域	算数や図形についての指導・留意	問題形式		算数や図形に関する		国語科		全国(公立)		全国平均との差		<参考> 平均を該当ページ
			算と図	算と算			算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	算と算	
1 (1)	46+57 を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	○							85.0	5.0		83.0	10.1	2.0		
1 (2)	90×6 を計算する	被乗数にゼロのある乗法の計算をすることができる	○							78.3	11.7		74.0	19.0	4.2		
1 (3)	9-0.8 を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	○							51.7	5.0		61.3	5.3	-9.6		算引ページ
1 (4)	2÷5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	○							51.7	5.0		52.5	5.3	-0.6		算引ページ
1 (5)	100-20×4 を計算する	減法と乗法の混合した乗法の計算をすることができる		○						75.0	15.0		74.0	15.6	0.2		
1 (6)	1/3+2/5 を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	○							85.0	5.0		84.6	5.3	0.4		
2 (1)	所与の図を基に、新しいステップの長さがないステップの長さ(単位長さ)の1/2に当たるときの新しいステップの長さを求める式を導く	割合が1より大きい場合、比較量の成功が(標準量)×(割合)になることを理解している	○				○	○		71.7	5.0		76.4	5.3	-4.7		算引ページ
2 (2)	所与の図を基に、新しいステップの長さがないステップの長さ(単位長さ)の4/5に当たるときの新しいステップの長さを求める式を導く	割合が1より小さい場合でも、比較量の成功が(標準量)×(割合)になることを理解している	○				○	○		71.7	5.0		74.4	5.3	-2.7		算引ページ
3	所与の分数の中から、1/2より大きいものを求める	分数の増減及び大小について理解している	○				○	○		16.7	5.0		25.9	5.3	-9.2		算引ページ
4 (1)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋の椅子を並べている	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを求めることができる	○				○	○		41.7	5.0		45.0	5.3	-4.1		算引ページ
4 (2)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋について、1m <sup>2</sup> 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	○				○	○		45.0	5.0		57.0	5.3	-12.0		算引ページ



全国平均との比較を通じて、子どもたちの苦手とする設問がわかります。こういった設問を苦手としているか、苦手としている設問に共通点はあるか、なぜ、その設問を子どもたちが苦手としているのかを学校で話し合ってみましょう。

## (2) 課題に応じた学習指導方法の改善

子どもたちの苦手分野の克服のために、まず、次頁からの「国語科・算数科における学習指導方法の工夫」を参考にしてください。更に指導改善を進めるときには、国立教育政策研究所の作成する「解説資料」や「報告書」、「授業アイデア例」を活用ください。

すべての分野の学習指導方法を改善しようとするのではなく、まずは、調査結果から見えてきた子どもたちの苦手とする分野について、学習指導方法の改善を考えてみましょう。



### (3) 国語科における学習指導方法の工夫

平成26年度全国学力・学習状況調査  
国語A問題の設問

#### 漢字を読んだり書いたりする

H26国語A1

新しく学習した漢字は何度も練習させているんだけど、なかなか覚えられなくて困っています。



#### ○間違えやすい漢字については、ポイントを絞って意識的に指導する。

学年別漢字配当表に示されている漢字を、正確に習得させるためには、計画的に指導することが大切です。

例えば、新出漢字を学習するときに、印象的な出会いを大切にしているでしょうか。また、子どもたちが間違えやすい漢字を意識して指導しているでしょうか。「勢い」の読み取り、「祝う」の書き取りなど、子どもたちがどういった間違いをするのかを意識して指導すれば、誤答が少なくなるはず。「勢」は第5学年、「祝」は第4学年での新出漢字です。

#### ○小テストなどにより、繰り返し漢字にふれさせる機会を設ける。

新出漢字をノートに繰り返し書いて練習させるとともに、既習の漢字を意図的に復習させることも大切な指導です。日常生活の中で頻繁に使用する漢字は、定着しやすいものですが、そうでない漢字は意図的にふれさせることが必要です。単元・学期・学年単位の期間で、定着状況を確認する場を設け、その中で正確な漢字の習得を行っていくことが大切です。

#### ○学習した漢字は、徹底して活用させる。

学習した漢字については、日記、作文、連絡帳、他教科の学習等の様々な場において、必ず使うように指導します。使えていないときには、朱書きするなどして意識化させます。使えているときには、日常生活の中で活用できたことを認め、価値付けをすることで自信をもたせ、より確かな定着へとつなげていきます。

#### 故事成語の意味と使い方を理解する

H26国語A2

故事成語の意味を調べてノートにまとめているのですが、なかなか正しく理解することができません。



#### ○意味調べで終わらせず、故事成語を用いたストーリーを考えさせる。

まずは、故事成語に興味や関心をもつことができるように指導することが大切です。動物が出てくるもの、数字を用いたものなど、題材ごとに分類して示すことも工夫の一つです。その上で、子どもたちが興味や関心に応じて故事成語を調べていくことができるように指導します。

ここでは、故事成語の意味理解にとどまるのではなく、自分の表現に活用することが大切です。そのためには、取り上げた故事成語をどのように使うことが適切かについて吟味することができるように指導します。例えば、次のような学習が考えられます。

1時間目 取り上げる故事成語を決め、意味を確認する

教員がいくつかの故事成語を提示し、子どもたちとのやりとりの中で、共通点に沿って仲間分けをする。お気に入りの故事成語を見つけたいという思いが広がったところで教科書や資料をもとに意味を調べさせる。

2時間目 取り上げた故事成語を使った物語や四コマ漫画をつくる

3時間目 つくった物語や四コマ漫画を友達と交流し、故事成語の使い方を確かめる

各自がつくった物語や四コマ漫画を3～4人組のグループ内で紹介する。作品に感想を記入するワークシートを付けておき、読み終わったら記入するようにする。故事成語と物語・四コマ漫画のストーリーが適しているかどうかの視点を感じの中に入れておく。集まった感想をもとに自分の作品を見直し、故事成語の使い方の適否を確認させるようにする。

新聞を読む時間は多く取り入れていますが、何を捉えさせたらよいのかはつきりしていません。



○表現の工夫を捉えやすくするために文章を比べさせる。

投書の表現には、書き手が自分の主張を効果的に伝えるために、次のような表現の工夫をしているものがあります。

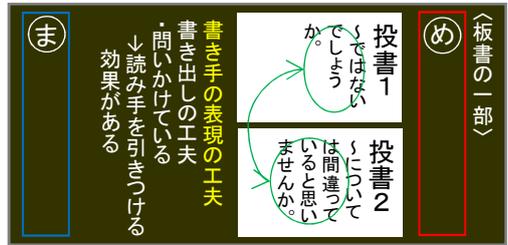
- ・書き出し(問いかける、人の意見に賛否を示す など)
- ・文末表現(断定、説得、共感、希望、願望 など)
- ・内容構成(体験に基づく意見、事実と意見との区別、ことわざや言い伝えの引用 など)

このような投書の表現の工夫を捉えることが大切です。投書の書き手の立場に立ち、読み手に対して自分の意図を伝えるためにどのような工夫をしているかを捉えさせます。そのための学習活動として、複数の投書を比べて読むことが考えられます。

比べながら読ませることで、共通点や相違点に着目しながら様々な表現の工夫を捉えることができるように指導することが大切です。これは、説明文を読む学習においても同じように言えることです。単なる内容理解に終わらず、筆者の表現の工夫を捉えることを意識して授業しましょう。

<学習活動例>

- 同じテーマについて、異なる意見を述べている投書を取り上げて提示する。
- 拡大した二つの投書を黒板の上下に並べて提示し、共通点と差異点を一つずつ確認した後板書に位置付ける。その後、各自で説得力が増している表現の工夫を、二つの投書を比べながら見つけさせる。
- 全体の場で、書き手の表現の工夫として整理してまとめる。



物語の登場人物の相互関係を捉える

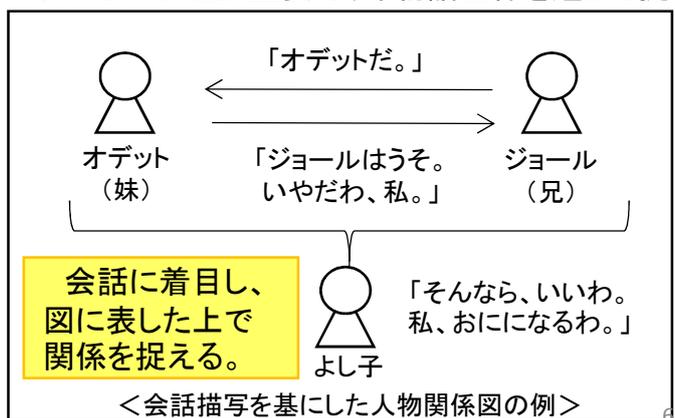
登場人物の関係を捉えさせるためには、どのような指導を行うといいのでしょうか。



○単に気持ちを問うだけでなく、行動や会話、情景などから登場人物の気持ちを読み取らせる。その際、図に表すなどして関係を捉えさせる。

物語などを読むときの中心となる登場人物について、その相互関係を捉え、それらに基づいて心情や場面の描写を捉えることが重要です。そのためには、まず、一人一人の登場人物の行動や性格に基づき、場面の展開に即して変化する気持ちを中心に捉えることができるように指導することが大切です。さらに登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉えることにつなげていくことが重要です。物語全体を通して捉えた登場人物の相互関係については、図などに表す指導が考えられます。

右にまとめているものは、物語の会話に着目して図式化したものです。物語には、登場人物の行動や会話、周りの情景などの描写といった様々な表現が使われています。登場人物の関係を捉えるためには、どの表現に着目させる必要があるのかを見極めて指導することが大切です。



<会話描写を基にした人物関係図の例>

「平成26年度【小学校】国語A5」より

#### (4) 算数科における学習指導方法の工夫

平成26年度全国学力・学習状況調査  
算数A問題の設問

#### 基礎的・基本的な計算

H26算数A1(1)(2)(5)



簡単な計算でもよく  
間違えてしまいま  
す。

#### 指導のポイント

前に習ったことでも、繰り返し練習をすることが大切です。つまずきに応じて、具体物や図を使って、計算の仕方を確かめましょう。

#### 小数第1位までの「(整数)－(小数)」の計算

H26算数A1(3)



「 $9 - 0.8$ 」を位を  
そろえずに計算し  
てしまいます。

#### 指導のポイント

小数のたし算やひき算の筆算は形式的に指導するのではなく、0.1のいくつ分と考え、整数の計算にもどして、同じ位同士で計算できるようにしましょう。

#### 商が小数になる(整数)÷(整数)の計算

H26算数A1(4)



「 $2 \div 5$ 」の計算が  
できません。

#### 指導のポイント

図を使って、わられる数の2は0.1が20個分であることを確かめ、計算できるようにしましょう。

#### 【板書例】 0.1をもとに考えて

$$\begin{array}{ccccccc} 2 & \div & 5 & = & 0.4 \\ \downarrow & & & & \uparrow \\ 20 & \div & 5 & = & 4 \end{array}$$

0.1が20個分                      0.1が4個分

#### 異分母分数のたし算の計算

H26算数A1(6)



$\frac{1}{3} + \frac{2}{5}$ の計算が  
できません。

#### 指導のポイント

計算の仕方を考え、説明する活動を取り入れ、分母をそろえるために通分することが確実に理解できるようにしましょう。

#### 【説明例】

このままでは計算ができないので、分母をそろえるために通分します。分母の3と5の最小公倍数は15だから、 $\frac{1}{3}$ は $\frac{5}{15}$ 、 $\frac{2}{5}$ は $\frac{6}{15}$ になります。  
 $\frac{5}{15} + \frac{6}{15} = \frac{11}{15}$       答えは $\frac{11}{15}$ です。

## 乗法の意味

H26算数A2(1)(2)

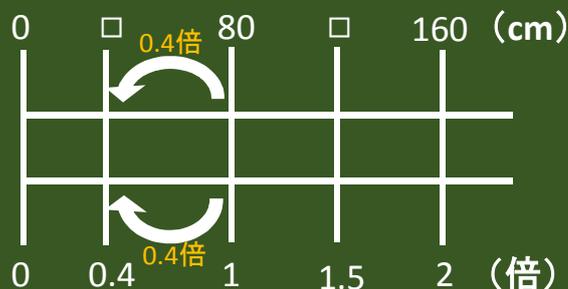


問題を読んでも「 $80 \times 0.4$ 」  
と立式できません。

### 指導のポイント

数直線を用いて、80cmを1としたときに、  
2倍、3倍に当たる量がかけ算で求められる  
ことを基にして、1.5倍や0.4倍に当たる  
量が、それぞれ  $80 \times 1.5$ 、 $80 \times 0.4$  で求  
められることを説明できるようにしましょ  
う。

### 【板書例】数直線を使って



## 分数の大きさ

H26算数A3



$\frac{1}{2}$ より大きい分数が  
わかりません。

### 指導のポイント

分数を小数で表したり、通分したりして求めら  
れるようにしましょう。大きさの等しい分数をつ  
くったり、数直線に表して、分数の大きさを比べ  
たりする活動を取り入れることも大切です。

## 異種の二つの量の割合

H26算数A4(1)(2)



単位量当たりの大きさを  
求めるのに「 $16 \div 8$ 」と  
立式できません。

### 指導のポイント

1㎡あたりの人数を「面積÷人数」と間違  
えないように、混み具合を調べるときは、  
問題から読み取った人数と面積の関係を  
図に表す活動を取り入れましょう。

## 円周、直方体の体積

H26算数A5(1)(2)



円周や体積  
を求める公式  
が使いません。

### 指導のポイント

直径、円周、円周率の関係を式に表す活動を取り入れ、(円  
周) = (直径) × (円周率) という式で求められることを理解でき  
るようにすることも大切です。

直方体の体積については、一辺が1cmの単位体積の立方体  
をきちんと敷き詰めた1段分の個数を(縦) × (横)、その段の個  
数を(高さ)でそれぞれ表すことができることの理解を確実にしま  
しょう。

## 平行四辺形の作図

H26算数A6



図形の作図が  
上手にできません。

### 指導のポイント

平行四辺形などを作図するときは、「平行四辺形は、向かい合っている辺の長さが等しい」といった図形の約束や性質と作図の手順を対応づけて理解できるようにしましょう。

## 直方体の面の形と大きさ

H26算数A7



直方体の面の  
形や位置関係が  
わかりません。

### 指導のポイント

直方体の面写しの活動や展開図に表す活動を通して、辺、面、頂点などの構成要素、辺や面のつながりや位置関係について理解できるようにすることが大切です。

## 式の表す意味

H26算数A8



「 $100 - 20 \times 4$ 」のようなひき算とかけ算が混じった式になると、どんな場面を表しているのか読み取れません。

### 指導のポイント

「かけ算とわり算は、たし算やひき算より先に計算する」という計算のきまりは、具体的な場面と式とを結び付けて理解できるようにすることが大切です。

### 【学習活動例】

「100円玉1枚を持って、1個20円のあめを4個買うときにおつりを求める場面」と「1本100円ペンが20円引きで売られているときに、そのペンを4本買うときの代金を求める場面」の二つの場面を式に表わし、式の違いについて話し合しましょう。

## □、△などを用いた式

H26算数A9



数量の関係を  
「 $\square \times 5 = \triangle$ 」と式に  
表すことができませ  
ん。

### 指導のポイント

伴って変わる二つの数量を表にまとめ、変わり方のきまりを□や△を用いて式に表す活動を取り入れましょう。

### 【板書例】 □、△におきかえて

1	×	5	=	5
2	×	5	=	10
3	×	5	=	15
4	×	5	=	20
↓		↓		↓
□	×	5	=	△

## 2. 更なる指導改善に向けて

「解説資料」等の全国学力・学習状況調査に係る資料を活用する

全国学力・学習状況調査についていろいろな資料が出て  
いるようですが、どのように活用すればいいのですか。



全国学力・学習状況調査は、「調査」の名称が示すように子どもたちの学力の実態を把握することを目的としています。そこで明らかとなった様々な課題の改善に向けて、実施者である国立教育政策研究所からは複数の資料が出されています。ここでは、いくつかの資料の内容や活用の仕方について紹介します。(国立教育政策研究所<http://www.nier.go.jp/>)



左の「解説資料」は、全国学力・学習状況調査の実施翌日に国立教育政策研究所Webページに掲載される資料です(後日冊子も配付)。

内容としては、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型、正答や予想される誤答についての解説、学習指導に当たって改善・充実を図る際のポイント等がまとめられています。

この資料は、調査実施「直後」に公開されることに大きな意味があります。全国的な結果が出てから対策を始めるのではなく、自校採点等により課題が見られることが予想される問題については、すぐに授業等での取組を進めることができます。活用に当たっては、次の2点に留意しましょう。

- ① 出題の趣旨を理解した上で、学習指導要領との関連で、身に付けさせるべき力を確認する。
- ② 自校採点のデータ等をもとに、**解答類型**から子どもたちの学力的な課題について見通しをもつ。

**解答類型**（「平成26年度 全国学力・学習状況調査 解説資料」より抜粋）

解答類型は、一人一人の児童の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。正答例、誤答例を示していますので、自校での採点を行う際や学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。

<正答>

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

<解答類型の番号>

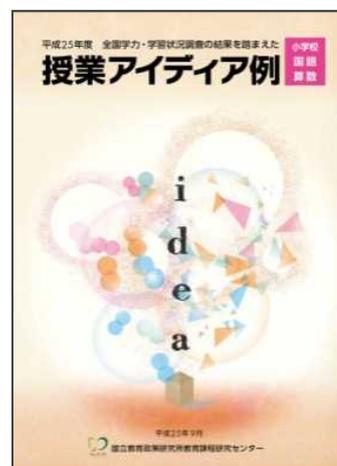
解答類型1～8（最大） 正答・予想される誤答（複数の解答類型が正答となる設問もある）

解答類型9 「上記以外の解答」（解答類型1～8までに含まれない解答）

解答類型0 「無解答」（解答の記入のないもの）

また、例年夏の結果公表後、右のような「報告書」「授業アイデア例」が国立教育政策研究所Webページに掲載されます（後日冊子も配付）。

これらには、教科に関する調査の各問題の分析結果と課題、課題が見られた調査問題で求められている力を身に付けさせるための授業アイデア等がまとめられています。「報告書」で全国との比較で差の大きな問題の分析を深め、「授業アイデア例」を参考に実際の授業づくりに反映させることが重要です。



## 誤答分析により、つまずきの傾向を把握して指導改善を行う

全国学力・学習状況調査から子どもたちの課題を把握するためには、具体的にどういふことをすれば効果的ですか。



子どもたち一人一人の解答には「意味」があります。正答であれば、基本的にその問いに対して必要な学力を備えていることが分かりますし、無答であれば、時間配分や学習意欲といった個々それぞれに抱える課題が推察できます。そして、指導上大きな意味をもつのが誤答です。「どのように考えたのか」、「どのような間違い方をしているのか」をきちんと分析すれば、そこから今後の指導の大きなヒントをつかむことができます。誤答分析には、個人の誤答から課題を明らかにする視点と誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点が必要です。

平成25年度全国学力・学習状況調査国語Aの結果をもとに説明します。

### 個人の誤答から課題を明らかにする視点

平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語A ③より

自校で解答の採点をする際には、正誤の判断だけでなく、不足している要素やその要素が欠けた原因を推測することが重要です。

「新しく委員になった五年生は、(中略)不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして(中略)教えてあげたいと思った。」という一文を、「だから」を用いて二文にする。

#### 【ある児童の誤答】

新しく委員になった五年生は、(中略)不安そうにしていた。  
だから、**経験を生かして**(中略)教えてあげたいと思った。

正答は「～そうにしていた。だから、ぼくは、これまでの～」といった記述が為されることを求めています。上記の誤答は、傍線部に記述されるべき内容を的確に取り出せていない解答ですが、特に主語が省略されている点に注目したいと思います。この児童には、主語が異なる二つの内容を含む重文のような複雑な構造の文を理解することや、主語を明記する意識に課題があることが考えられます。主語を明記する意識の欠如は、文章を書く場面や説明するために話す場面にも影響するため、言語活動全般で、主語をきちんと明らかにして分かりやすく表現することや、複雑な内容の文章を構造的に理解することについての継続的な指導が望まれます。

## 誤答の反応率から集団の傾向を把握する視点

学習指導要領における領域・内容が同じ問題を過年度で比較すると、同じ分野に継続して課題があることが分かるなど、学校としての傾向がつかめることもあります。

平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語A ②より

### 「石の上にも三年」の意味

- 1 何事もやってみないと、よさが分からないこと。
- 2 あることが得意な人でも、失敗することがあること。
- 3 住み慣れると、そこが一番暮らしやすくなること。
- 4 しんぼう強くやれば、よい結果が得られること。

解答類型		反応率 (%)	正答
1	1 と解答しているもの	7.9	
2	2 と解答しているもの	6.1	
3	3 と解答しているもの	13.4	
4	4 と解答しているもの	71.3	◎
9	上記以外の解答	0.0	
0	無解答	1.2	

(「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書」より抜粋)

上記の例では、3つの誤答の反応率に偏りがあることが分かります。3と解答した児童は、「辛抱すること」と「慣れること」のニュアンスの違いを的確に捉えることをせず、字面のみから表面的に意味を類推したものと思われる。ここに誤答が集中するということから、ことわざを場面の中で使用する経験が少ない児童が一定数存在する可能性があります。こうした分析から、ことわざや慣用句の指導に関して、意味や使い方を理解するだけでなく、自分の表現に用いることができるようになるための工夫が必要であることが分かります。このように、誤答の反応率の「偏り」は、子どもたちの思考の様子や集団としての課題を把握するのに有効です。

課題として捉えた設問について、校内研修の中で誤答分析に取り組み、児童のつまづきの傾向を教職員全員で共通理解を図ることが大切です。



### 3. 単元・学期・学年を越えた振り返り学習の充実

#### (1) 振り返り学習がなぜ必要か

これまでの全国学力・学習状況調査において、岡山県の子どもたちは、直前に学習した内容の設問に比べて、前学期あるいは前学年の学習内容の設問を苦手としてきました。つまり、学習内容の「習得」ができてい一方で、「定着」が不十分、という状況にあり、子どもたちの学力の定着のための、単元・学期・学年を越えた振り返り学習が求められています。

#### 【岡山県平均正答率の全国平均との差－H25全国学力・学習状況調査算数Aより】

設問番号	設問の概要	学習時期	岡山県 正答率	正答率の 全国との差
1(2)	$0.75 + 0.9$	小4	61.1	-10.2
1(3)	$9.3 \times 0.8$	小5	84.0	0.3
1(6)	$2と5/7 + 1と1/7$	小4	82.9	-6.0
1(7)	$2/9 \times 4$	小5	90.1	0.6

4年生で学習する問題で、全国平均を大きく下回っています。子どもたちは、一度習得したことも、振り返りの機会がないと、忘れてしまうのです。



#### (2) 取組の方向性

授業時間だけでなく、朝学習・放課後学習・家庭学習の時間も有効に活用しながら、子どもたちの学力の定着を図りましょう。

#### 【振り返り学習実施のタイミングと実施内容例】

振り返り学習のタイミング		指導方法（例）
授業外	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝や放課後の10～20分間を使って、振り返りの演習(小テスト)を実施。</li> <li>振り返り学習用のプリントを作成し、定期的に宿題として配布。</li> </ul>
	放課後	
	家庭学習	
授業時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の最後に、単元末の振り返り学習を実施。</li> <li>新しい単元に入る際、関連する既習事項の振り返り学習を実施。</li> </ul>

### (3) 取組事例

#### ① 朝学習の取組

前学年や、前単元までの基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる朝学習の例を紹介します。

##### ～朝学習のきまり～

1. 実施日 毎週 火曜日～金曜日
2. 時間 8:20～8:30 (10分間)
3. 内容 火・水・金…学習  
木曜日…読書

以前は、職員朝礼の時間に「朝自習」を行っていましたが、職員朝礼を終礼に切り替えて、学級担任の指導のもと、「朝学習」を始めるようになりました。



#### 取組のポイント1

◎学校全体で共通理解を図りながら、体制づくり、計画づくりを行う。

- 「何のために行うのか」という「目的」を明確にします。
- 「自習」にするのではなく、教師が意図をもった指導を行うようにします。
- 内容については、平板なものにならないよう、変化をもたせるようにします。



##### ～朝学習の流れ～

1. 教材・プリントを机の上に置いて準備する。
2. 問題を解く。
3. 答え合わせをする。(できれば各自。低学年は担任で。)
4. 解き直しなど。早くできた児童は、ドリル学習や自習。

一学年分の棚



##### ～朝学習の内容(2学期 10月の例)～

- 1年生……………(前半) くっつき・促音、拗音 (後半) 漢字
- 2年生……………(前半) 言葉のきまり (後半) 計算
- 3～6年生… (前半) 計算 (後半) 漢字



内容別の引き出し

#### 取組のポイント2

◎「基礎・基本の着実な積み上げ」が児童に自覚できるようにする。

- 確かめプリントの実施により、それぞれの児童に自分の課題を把握させます。
- 前学年や前学期の内容など、課題にあった学習内容を取り入れます。
- 各自に答え合わせをさせ、自己評価させるとともに、教師も積極的に評価します。



#### ◎課題に基づく指導内容を取り入れること！

#### ワンポイントアドバイス

- ・決まり切った内容をただこなしているだけになっていませんか。児童の抱えている課題に焦点を当てた内容に取り組むことが学力向上への近道です。全国学力・学習状況調査の結果分析から捉えた課題については調査対象学年に限らず、関係する内容を意図的にどの学年でも指導内容に取り入れ、朝学習等の時間を使って克服していきましょう。調査問題の学習プリントは、義務教育課作成の春チャレンジ・夏チャレンジ問題がWebページに掲載されており、すぐに活用できます。



#### ◎学校全体での取組として位置付けること！

- ・朝学習の指導を担任一人で行っていませんか。朝学習の時間は10分～15分程度です。管理職や専科教員、学習支援員等を巻き込んで取組を強化していきましょう。登下校のサポートをしている保護者や地域の方に支援を依頼することも考えられます。個々の児童にできるだけ関わることができる指導体制になっているかどうか見直していただくことが大切です。これは、朝学習に限らず、昼・放課後の学習にも通じることです。

## ②放課後学習の取組

地域の学習サポーターの支援により、基礎・基本の着実な積み上げのために取り組んでいる放課後学習の例を紹介します。

### ～放課後学習のきまり～

1. 実施日 毎週 火曜日・木曜日
2. 時間 15:50～16:40 (50分間)
3. 内容 宿題、算数プリント

「放課後パワーアップ教室」という名前を付け、学習の習慣付けと繰り返し学習の取組を進めています。



### 取組のポイント1

◎地域の学習サポーターと教師の協力により、児童の学習支援を行う。

- それぞれの役割分担を明確にします。
- 地域の学習サポーターは、児童を励ますことで、学習の習慣付けを行います。
- 教師は、プリントの採点により、つまずきを把握し、克服に努めます。



学習の進め方 平成26年5月

パワーアップ教室のねらい

- ・自分から宿題ができるようになる。
- ・プリントを使って自分で学習ができるようになる。

はじまるまで

- ・あいさつをして教室に入りましょう。
- ・ランドセルは机の右にかけましょう。
- ・早く来た人から「ふりかえりシート」にその日にしたいことを書いておきましょう。

※時間をむだにしないため、宿題を始めましょう。

(後略)



「放課後パワーアップ教室」の様子



基礎学力定着プリント  
単元別確認プリント

### 取組のポイント2

◎「繰り返し」と「確かめ」により、基礎・基本の着実な定着を図るようにする。

- 個に応じた学習プリントを選択できるようにしています。
- 定着するまで何度でも繰り返して取り組めるようにしています。
- 毎月一回確かめプリント(前学年のまとめ問題)に全員で取り組ませます。



◎一人一人のつまずきを確実に解消すること！

### ワンポイントアドバイス

- ・学習の場の提供だけで満足していませんか。放課後学習の目的は、児童の抱えている学力的課題を解決することにあるはずですが、そのためには、広く希望者を集める方法もありますが、特に大きな課題を抱えている児童には、学校からの参加への積極的な働きかけも必要です。その上で、朝学習とは異なる長い時間設定の中で、つまずきの基になる内容から徐々にステップアップして、確実に定着するまでの個に応じた徹底した指導が大切になります。定着できたかどうかについては同じ内容の問題を繰り返し行い、随時確かめていくことが必要です。

◎学級担任と担当者の連携を強化すること！

- ・放課後学習では、学級担任が指導に関わらない場合もあることでしょう。そんな時には学級担任が、指導に関わる地域の学習サポーター等に、参加している児童の学習状況について伝える場を設けることが必要です。それにより、問題プリントを児童が選ぶ段階で学習サポーターがアドバイスすることができ、児童の抱えている課題に合った学習内容で取り組ませることができるようになります。

